

日本にやってくる「外国」と 経済格差

大久保正明 東京都立多摩高等学校教諭

1 新聞活用のねらい

- ①新聞記事の活用により、時事的な視点から社会の出来事を考察し学習を深める。
- ②新聞記事の活用により、急速に変化する国際社会の動きを具体的に学習する。

2 授業構成

(2時間)

ねらい	おもな学習活動
①私たちの生活にさまざまな「外国」が入ってきていることに気づかせる。	①生活の中にあるいろいろな「外国」を探す。外国人、食糧品をはじめとする輸入品、情報、文化などに「外国」があることに気づけてみる。 指導のポイント 身の回りにある品物がどこの国からきたかを確認し、地図で確認させる。意外に生産国を知らずに利用していることがあることに気づかせる。
②最近日本を目指して、密入国者が急増していることを理解させる。	②新聞記事を読み取る。どのような方法で日本に来るのかを知る。また、どの国から来ているのか国名をノートに書き出してみる。 資料▶ 1 2 指導のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・島国日本の沿岸上陸を目指した密航者急増の生々しい実態に注目させる。 ・密航の手段がハイテク化し、人工衛星や携帯電話を利用していることに注目させる。 ・集団密航者の中でこの2、3年、中国人が急増していることを理解させる。 ・外国人労働者問題について他国の例を学び、日本社会への影響について考えさせる。
③密入国者の出身国の経済事情を考えさせる。	③地図帳にある統計などを利用し、密入国者の出身国の一人当たり国民総生産を調べ、日本と比較してみる。どのくらいの格差があるのか予想してみる。 指導のポイント 日本の一人当たりの国民総生産を100とし、他国と比較させる。
④日本の対応策を考えさせる。	④合法・非合法にかかわらず、日本において外国人労働者が急増している事実を知る。どのような対応策が望ましいかを考える。 資料▶ 2
⑤身の回りの家電製品などの逆輸入が進行していることを理解させる。	⑤新聞記事を読み、その実態を知る。また、その背景、原因を考えノートにまとめる。輸入浸透度について学習する。 指導のポイント 身の回りの家電製品の生産国を調べ、学校の帰りに電器店などで調査させる。その際、同じ製品でも国内生産と海外生産とで価格の違いがあることに気づかせる。 資料▶ 3 4
⑥衣料品も輸入が急増していることを理解させる。	⑥新聞記事を読み、その実態を学ぶ。 資料▶ 5 指導のポイント 身の回りの輸入衣料品の生産国を調べさせる。
⑦日本における生産コストが高いことを理解させる。	⑦アジアの国と日本の人件費・地価・物流費などの違いを調べる。 資料▶ 6 指導のポイント 生産コストの高い日本にあらゆる分野で安い輸入品が急増している。この状況の中で日本の産業の生き残り策を考え、クラスで話し合わせてみる。

ねらい

おもな学習活動

⑧これからの日本を考えさせる。

⑧外国人労働者受け入れの是非、加速する輸入製品の増大・国内産業の空洞化・新しい産業の育成・日本の生き残り対策などの視点を設定し討議する。

指導のポイント

グループで討議し考えをまとめさせる。さらに各グループの意見を比較して自分の意見を深めさせる。

資料1 毎日新聞 1997. 12. 15付夕刊

巧妙化する

密航



船を使った中国人の集団密航事件が11月から再び急増し、14日現在で日本沿岸で6件、182人が不法入国容疑で逮捕された。海上保安の調べでは、これまでに今年までの逮捕者数は677人で過去最多となり、うち95%が中国人。組織の分業化をはじめ、人工衛星による位置測定装置(GPS)や携帯電話を使った「密航シネ」は巧妙化しており、海上保安庁は自衛隊や中国とも連携して取り締まりを強化する。

【熊本 泉】

人工衛星で位置確認、携帯電話で連絡

「ビジネス」確立

港で貨物船内の2人を発見、逮捕した。密航者(来年1月)を前に、フィリピン4人、韓国2人、また、ほか助犯として船の乗組員ら計11人を逮捕しているほか、巡視船が不審船を追跡し中国海まで追いついたケースが11件あり、船上に400人以上を

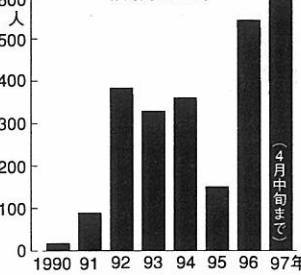
先月から再び急増 年間597人、過去最多

密航者の逮捕は昨年が計481人。今年は12月、今年初の増加は、1月、14日に高根根で沈没したボートからの重油流出事故、その後、3・10の3カ月間は15件、98人で巧妙化したように見えたが、11月は4件、0.8人再び増加。今月8日に房総半島から鹿児島県奄美大島沖まで追跡した密航船から7人(乗組員2人含む)、同乗者7名、長らく驚愕し、V香港返

との接岸は最近だが一般の密航者とは異なる。密航者が細分化し、受け入れ側の組織が複雑化している。日本では今年1月から4月中旬までだけで、昨年1年間の695人を上回る610人の中国人密航者が検挙されている。

選時の中国当局による締め付けが緩んできた。密航者の手組が密航者の募集、運搬、日本の引き取り、宿舎や仕事のあっせん、手配などが分業化されて密航ビジネスとして「確立」。

中国人集団密航者の検挙者数 (警察庁まとめ)



資料2 毎日新聞 1997. 5. 19付朝刊



今年2月、三重県大王崎沖で摘発された中国からの密航船(右)。中国から日本への密入国が増加するが、摘発されるのは一部だといわれる(第4管区海上保安本部撮影)

桑原靖夫教授 中国南部から日本への不法入国者の増加が目立っているが、不法入国が増えた原因は何でしょうか。桑原教授 中国が経済発展したとはいえ、日中の労働者の賃金格差は依然として大きく、日本に比べて生活水準が低いため、日本に移民しようとする人が増えています。



住民との摩擦、激化 成功者は高いといわれるが、当局に摘発された者しか公になっていない。香港政府は指定しているが、従来、香港流入していたはずの中国人が返還される香港を嫌い、日本に流れているという話もある。

蛇頭(スネークヘッド) 中国人の密航を請け負う組織の総称。中国福建などで複数の組織がある。組織の実質的なボスは台湾や香港のマフィア組織のトップといわれるが、実体はベトナムやタイの密航者である。

3 評価の観点

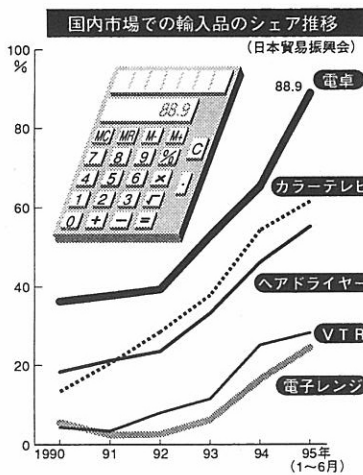
- ①新聞記事の活用により、外国人の増加の背景および身の回りの製品の事情について興味・関心が持てたか。
- ②アジアの国々の人が密航までして日本に来る理由が理解できたか。
- ③身の回りに外国製品が急増していることを理解できたか。
- ④大量に安い外国製品が急増することにより、日本の産業社会が変化しつつあることを理解できたか。
- ⑤外国人労働者と住民との摩擦問題を自分たちの問題として考え、理解できたか。
- ⑥今後、日本はどのような対応策をとるべきか考えることができたか。
- ⑦自分の生活がたくさんの「外国」に依存していることに気づき、海外依存度が上昇していることを理解できたか。

4 生徒に配布するワークシート例

- ①アジアの国々と日本の一人当たりの国民総生産を比較すると、どのようなことが言えるのか。
- ②身の回りにある「外国」を探し出してみよう。
- ③実際に電器店などに行って電気製品がどの国で作られているかを調査してみよう。
- ④統計資料などを利用して在日外国人の急増ぶり、その内訳を調べてみよう。
- ⑤日本企業の海外進出と、日本国内の産業の空洞化について考えてみよう。

資料 3 毎日新聞 1995年5月9日付夕刊

輸入品がいっぱい



「輸入品—高級品」と考えられたのは昔の話。今や国内メーカーの海外進出で、日本で作られる製品より輸入品のほうが安くて大きなシェアを占める工業製品も珍しくなくなった。身近なモノの輸入浸透度を調べてみた。

電卓の9割が外国製品に
価格競争の激しい電卓。安売りに向くと1台880円の製品を5台8800円の製品がスリ並んでいるが、こうした廉価品は圧倒的に輸入品が多い。といつても海外メーカー品は少なく、カシオや日本メーカーが海外の工場で生産している製品だ。

カメラ、腕時計の精密機械も
カメラは従来から外国製で、日本電機工業会が国内市場の半分を占める。94年のカメラの輸入品は約89%、10台のうち9台が外国で作られた製品ということになる。カメラは従来から外国製で、日本電機工業会が国内市場の半分を占める。94年のカメラの輸入品は約89%、10台のうち9台が外国で作られた製品ということになる。

カラーテレビは国内生産がほとんど打ち切られていて、国内で作るとすれば3万円前後、人件費や原料費の差が大きい。同振興会によると、その比率は94年に50%を越え、今年上半期の統計では61.5%、5台のうち3台が輸入品にたどり着いている。

カラーテレビは国内生産がほとんど打ち切られていて、国内で作るとすれば3万円前後、人件費や原料費の差が大きい。同振興会によると、その比率は94年に50%を越え、今年上半期の統計では61.5%、5台のうち3台が輸入品にたどり着いている。

カシオをはじめシャープ、キヤノンなどがこぞ工場を東南アジア中心に移転。多い。国内メーカーが東南アジアで作る音響型の14型カラーテレビの店頭価格は2万5000円前後。このクラスのテレビは国内生産がほとんど打ち切られていて、国内で作るとすれば3万円前後、人件費や原料費の差が大きい。同振興会によると、その比率は94年に50%を越え、今年上半期の統計では61.5%、5台のうち3台が輸入品にたどり着いている。

身近なものにも浸透

生産コストで勝てぬ国産品



カラーTVの6割は、船来品。の時代になった—ソニーベトナムのカラーTV製造ライン

3万台が輸入品。カメラは一人の手作業が不可欠な労働集約産業(工業)のため、国内の人件費が上昇した70年代に国内メーカーは多く、国内メーカーが国内で作る純国産品はさがるに少なくなりそうだった。その後、これら「ライカ」「ソニー」の地域の人件費が上がったため、今では中国や東南アジアの的の純外国製精密機械のシェアは小さい。

腕時計も93年から国内市場の過半数を輸入品が占めている。こちらは香港などのメーカーが作った純外国製品。日本時計協会によると、94年の輸入品シェアは円高の追い風を受けて79%と、前年より19%高まった。

円高で日本経済が構造的変化
通産省が四半期ごとに公表している鉱工業供給表によると、業種別の製品に、同様に繊維製品で輸入品シェアの急増が5年間で約2倍に達している。例えば、95年4-6月、日本貿易振興会の伊東倫子さんは、円高に伴い、日本経済は原材料輸入国から製品輸入国へと構造的な変化をしている。輸入品の高まりはそれに伴うもので、この状況は今後しばらくは変わらないと断言している。

一方、乗用車は10%に届かず
日米摩擦で話題になった乗用車の94年の輸入比率は、8.1%。日本自動車輸入組合調べ、逆輸入車を含む)だった。

衣料品、今や超輸入大国

衣服の輸入が急増している。このペースとまった集計では、昨年の輸入額は輸出の六十五倍という、業界団体も改めて驚くほどの大幅な入超えとなった。コストが高い日本のアパレル産業の体質や円高が主な原因。「ワラウス」の輸出で外貨を稼いだのは昔話としても、衣料の面では今や貿易黒字がそのような超輸入大国だ。

輸出額の65倍

に輸入品の割合が増えた。今月から四階に新設された約一千五百平方メートルの婦人服売り場では、カラフルな春ものがいっぱい。ラベルには英、米、仏、伊、独などの生産国表示が並ぶ。この売り場では海外ブランドが約四割強を占める。「服質、デザインと価格のバランスへのお客の目が厳しくなった。結果として輸入品が増えた」と同店。

中国の中価格品急増

スーパーのタイエーでは、紳士用ビジネススーツの輸入品比率が、一九九三年の四〇％から昨年は八〇％になった。中国製が中心だ。「いまのお客さんは価格と品質が納得できる、気に入るものは海外ブランドで作ったかほこだわらなくなってきた」という。

ブランド品は直輸入

集計では二七倍だった。その後も輸入増が続いたこととは分かってはいた。これほどになったのは正語。フランスの「ルイ・ヴィトン」の三・三倍、米国の「グッチ」の二・三倍、中国の「ZARA」の二・三倍など、先進国の中級品を抜いている。

輸入衣料といえば、欧米の高級ブランド服が中国やインドなどの中価格品が主流が増えた。また、中国



世界中から集められた有名、無名ブランドの単品が選べる新売り場＝東京・新宿の伊勢丹で

近は「三・一・五倍程度に下がり、さらに円高が拍車をかけた。日本アパレル産業協会の市川駿参事は「輸入増の本当の原因は、国際的に適正な価格の服を国内で生産しにくくなったことにある。土地代などのコストが高い上に、複雑な流通経費が上乗せされる業界的体質を改善しない限り、入超は今後もひどくなるだろう」と指摘する。

通産省通商課の稲葉健次課長は「輸入規制のような措置が必要になるかどうかは、推移をよく見極めたい。だが、今後は独自のデザインやハイテク素材などで日本の強みを生かした付加価値の高い服でファッションの情熱を高め、輸出努力を重ねていくことが必要だ」と話している。

食卓の円高

円高に、顔を凝らす経営者やサラリーマンが多い。しかし、日本は食料の六割を海外に頼る「食料輸入大国」。食べ物が高ければ、懐にもしは余裕がなくなる。円高ととも変わる食卓の舞臺を紹介する。

「米園産アスパラ」一束、割も安い。関西や各地で百二十八円、「台湾産」も今後セールの展開する「一袋百五十八円」。考えだ。



急増する輸入野菜

国内価格冷やす効果

れた。円高が続けば、もうの得意で、食品の仕入れの便益に過ぎません。西友を担っている西友グループの林悦男は「お盆」の値は低く、西友の九四年度の輸入量は、前年度より六三増え、同社で扱っている果物の五割弱、野菜の約一五％が輸入品になった。九四年度は「今の円高が続けば、少なくとも七、八〇％は増える」と林さんはみる。海外からの貨物を三十四時受け入れてくる関西国際空港には、輸入野菜など生鮮野菜が、輸入高のあらしが吹き飛んだ三ニューシニアと産や中国産の輸入野菜が、特価商品として並ぶ。超広角レンズ使用。10日午後、千葉県浦安市のスーパーで

効果が出てきた。大手スーパー各社は、海外日本への需要を伸ばす。現地の農家を指導し、日本の味覚に合った野菜を輸入してきた。日本用の畑道員だ。しかし、円高は、季節によって世界を転々と、消費者の低価格志向が追い風になって、スーパーなど店頭に、輸入野菜が幅をきかせている。消費増税を見ても、天、四月は米カキ、五月はアスパラガス、六月はメキシコ、輸入食品といは、生鮮野菜の魚介類が先駆けていた。一、二〇〇円を突破する円高は、世界の食料の輸入を一段と加速させている。

資料5 朝日新聞 1996.3.30付夕刊

資料4 朝日新聞 1995.4.20付朝刊

資料6 朝日新聞 1996.1.1付朝刊

アジア主要都市の生産関連コスト比較 (単位:米ドル)							
都市	シンガポール	バンコク	ジャカルタ	マニラ	上海	日本平均	本日の平均
賃料	630~1150	160~310	190~290	100~200	160~220	66~130	3216
賃料(1m ²)	-	82.5	85~128	60~66	-	-	370
電気	0.07	0.04	0.06	0.035~0.074	-	0.07	0.13

コスト高日本が突出

日本は高い人件費、地価、物流費は突出しており、急成長を続けるアジア市場の中で、これらの要因が将来的には日本の国際競争力を損なうことにもなりかねない。日本貿易振興会(ジェトロ)が実施した、ビジネスコストに関する日本とアジア諸国の国際比較調査は、こんな懸念を裏付けた。

ジェトロは在外事務所を二百ヶ所ほど、工業用地の買取価格や工業用地賃料なども日本の高コストが突出している。また、物流費を見れば、主要港から内陸の工場から、米ロサンゼルスまで、コンテナをコンテナで運ぶのに、日本は他の都市に比べて、二倍から三倍、日本の方が高かった。

アジア各国からは、日本から四分の三から半分の費用で対米輸出ができるという結果だ。生産拠点をアジアに移転、国内産業の空洞化を間接費の面から裏付けている。

世界から集められた有名、無名ブランドの単品が選べる新売り場

＝東京・新宿の伊勢丹で

通産省通商課の稲葉健次課長は「輸入規制のような措置が必要になるかどうかは、推移をよく見極めたい。だが、今後は独自のデザインやハイテク素材などで日本の強みを生かした付加価値の高い服でファッションの情熱を高め、輸出努力を重ねていくことが必要だ」と話している。

アジア市場
ジェトロ調査